

2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)

特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき 活動報告書

■2013年度を振り返って

2013年度は第4期中期計画(2013～2015)の初年度でした。これまでの基金に依存した体質を脱却して、基金に頼ることのない事業体への移行を指向し、事務局やメサ・グランデの有給スタッフの人員削減、遊友ひろばの運営をボランティア中心とする体制へのゆるやかな移行、ぐらすレターの発行回数を減らすなど経費の削減に努めながら、ぐらす・かわさきの使命と役割を果たすための事業に積極的に取り組んできました。メサ・グランデでのコミュニティビジネス支援に関する事業や、地域コミュニティの場としてのカフェ事業、その前年に試行した「かわさき・サポート基金」を基にした地域・市民ファンドの新しい組織づくり、高津区たちばな地区の農的資源を活用した地域活性化事業、地域の子育てを支援する事業、川崎市の市民自治を推進するフォーラムの企画運営などです。

「遊友ひろば」に関しては、これまで行ってきた事業は地域課題の解決のために一定程度の成果があったけれども、現在、それらの課題解決の場所は他にも広がり、運営できる財源が逼迫してきたことも考慮し、ボランティアの人たちによる運営体制づくりや連携できる団体の発掘など、新たな形を模索してきました。その結果、来年度は場を継続する方向を確認し、ただし、赤字にならない体制づくりに「遊友ひろば改革委員会」が中心となって取り組んできました。

メサ・グランデのカフェ事業は平日の夜間の営業が、開設時よりの課題で、1年目(2012年度)は「家庭科カフェ」に当初トライするも不振で、後半は平日夜の営業を中止しました。2年目(2013年度)は「チャレンジシェフ」の制度を導入し、起業支援事業として実施しましたが、週1回、曜日変わりで、という運用上の難しさから参加者が増えず、後半はスタッフによる自主運営に移行しましたが、飲食店としての魅力を打ち出すまでには至らず、今年度も赤字を出しました。起業支援に関しては、長寿社会文化協会(WAC)と連携し、コミュニティカフェ開設講座などを開催し、メサ・グランデの設備を活かしたプログラムを実施、成果を出すことができました。

地域市民ファンドの設立については、内容と体制の確立を目指し、広くさまざまなメンバーとの接触、人材発掘に努めてきましたが、目標の2013年度での設立には至りませんでした。

ぐらす・かわさきとして2012年度にNPO法人の仮認定を受けましたが、今年度は川崎市の条例指定を12月に受け、2013年度末には認定を申請しました。

2013年度の会員数

| | 正会員個人 | 正会員団体 | 賛助会員 | 合計 |
|---------|-------|-------|------|------|
| 2012年度末 | 155名 | 9団体 | 15名 | 179名 |
| 2013年度末 | 126名 | 7団体 | 17名 | 150名 |

会員は個人会員の入会が6名、脱退が34名、団体会員の退会が2団体、賛助会員の入会が1名、正会員個人の内、賛助会員に移動した人が1名。

■2013年度事業内容

(1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施(定款第5条(1))

地域市民ファンド設立準備事業 (担当理事:江田・町田、スタッフ:広岡)

事業規模（売上高合計）：1,034 千円（すべて寄付収入）

目的：市民の想い（共感）を表すお金（志金）と、地域の課題を解決しようと活動している団体とをつなぐことで、暮らしやすい「かわさき」を生み出していく。具体的には川崎市内の市民活動を応援する仕組みとして、様々なセクターと協力して、新しい組織としての地域市民ファンドを設立させる。

概要：学習会（講師：三菱 UFJ リサーチの水谷衣里さん）を 1 回、準備会のための打ち合わせを 6 回、まちづくりカフェで「市民ファンド」をテーマとして、行政の担当者とぐらす・かわさきの担当者がそれぞれ現在の状況を報告し、意見交換した。

成果：・2013 年度中の新しい地域市民ファンド設立はできなかった。

- ・「地域・市民ファンド」設立の必要性を確認できるコアメンバーを集めることができた。
- ・従来の市民活動だけでなく、ソーシャル・コミュニティビジネスを考えている人たちとの連携ができた

課題：・準備活動のための資源を確保する必要がある。

- ・実際の事務局を担う人材不足。

高津区「たちばな農のあるまちづくり」推進事業

（担当理事：田代・岸田、スタッフ：田代・吉田）

事業規模 2,051 千円

目的：高津区、特に橘地区における地域資源を活用した地域レベルからの地元意識・ふるさと意識の醸成に寄与するとともに地域活性化に寄与する取り組みを、市民と区の協働で行う。

概要：2009 年度から継続して高津区からの委託事業として実施。

「たちばな農のあるまちづくり推進会議」の運営や事業のコーディネート、及び活動が将来的に自立化する方向の検討。

- ・「高津 さんの市」7 月 21 日・10 月 6 日・12 月 15 日・1 月 19 日：久本薬医門公園で開催）
3 月 9 日：「たちばな農のあるまちづくり推進フォーラム」と合わせ、高津区役所で開催
- ・「ミニさんの市」：11 月 17 日 メサ・グランデにて開催。
- ・イベント等への参加：ブース出店...4 月 28 日・11 月 3 日： ポレポレフリマ地元ひろば、
11 月 2 日：プラザ橘まつり
- ・「育てて食べよう！マイベジタブル〜」（9 月 14 日、10 月 26 日、11 月 9 日、12 月 8 日の 4 回）
参加者数 第 1 回：13 名、第 2 回：雨天中止、第 3 回：13 名、第 4 回：22 名
場所：新作のリトルファーム
- ・「農と緑を歩くツアー」：高津区まちづくり協議会緑部会と共催で企画するも、雨天の為中止。
- ・「久末品評会ツアー」：12 月 1 日開催。参加者 22 名 第 97 回久末農産物品評会と久末小学校バザー見学後、農地で農家さんの説明を受けた。
- ・「たちばな地区風景写真展」1 月 7 日～10 日の 4 日間、高津区役所ロビーにて開催
出展者数：10 名、出展写真数：20 枚
- ・援農：開催日・参加者数：4 月 6 日 2 名、4 月 14 日 2 名、6 月 2 日 4 名、6 月 23 日 6 名、7 月 7 日 2 名、7 月 14 日 2 名、9 月 14 日 2 名、2 月 2 日 16 名 参加費 300 円



- ・「たちばな農のあるまちづくり推進フォーラム」3月9日、高津区役所ロビーにて開催
事業報告、事業参加者にインタビューコーナー、写真展表彰式、団体出展ブース、たちばな野菜
で1日に必要な野菜計測コーナー、カレー・トン汁コーナーなど、地産地消や食育推進の取り組
みとして、開催し、約200名の参加があった。

成果：・「さんの市」が地域に浸透してきつつあり、地産地消の意識が高まった。

- ・「マイベジタブル」や「援農」は参加数は少ないものの、着実に子育て世帯などに、地産地消促
進や食育に効果が見られる。

課題：

- ・「さんの市」への出店農家が減少してきた。出店者のエリアを拡大しないと成立しない。
- ・推進委員の事業への参加が少ない。今後の組織づくりのための意識の共有。

かわさき市民自治推進フォーラム事業

(担当理事：薬袋、スタッフ：広岡、協力スタッフ：江田)

事業規模：1,300千円

目的：川崎市の自治基本条例の理念を広く市民に広めるとともに、
多様な主体による地域課題の解決に向けた取組事例を共有
し、地域の自治力を高めること。

概要：日時：2013年11月9日(土) 場所：川崎市中原市民館

タイトル「地域力アップ かわさきフォーラム」

基調講演：早瀬昇さん(大阪ボランティア協会常務理事、日本NPOセンター代表理事)

「町内会・自治会と市民活動団体が連携した地域づくり」

パネルディスカッション、地域力アップ事例めぐり(パネル展示)

参加者約100名

成果：町内会・自治会と市民活動団体という、これからの地域の課題解決を担う団体の交流の場
を設けることができた。

課題：当事者である市民活動団体の人たちや、町内会・自治会の人たちの参加が少なく、広報が
不十分だった。広報についての川崎市との役割分担が不十分だった。

昨年同様、企画とイベントが別々に委託され、今後このような委託方法について改善する
ことを提案していく必要がある。

過去の自治推進フォーラムでは、市民活動団体から実行委員を募集し、企画・実施してい
た。今回も市民活動団体や町内会・自治会を巻き込むために、当事者からなる運営委員会
を開催するなどし、主体的に関わってもらうことが必要だったのではないかと。



(2) コミュニティビジネス(CB)を支援するための事業の企画・実施(定款第5条(2))

メサ・グランデCB事業(担当理事：竹林・田代、スタッフ：田代・佐藤・東)

事業規模：5,798千円(内 事業収入：4,394千円・寄付収入：1,404千円)

目的：昨年「かわさきみんなのキッチン推進協議会」が主体となって行った、「みんなのキッ
チン推進事業」を引き継ぎ、地域に必要な仕事を地域で起こすための人材の育成。

概要：

- ・ワンデイシェフ事業：土日祝日に、これからコミュニティカフェ等を起業したい人などに、店舗営業の体験ができる場として提供した。利用料はランチで 15,000 円、ディナーで 18,000 円。
利用者数：16 名、延べ利用回数：44 回（最多利用者は 12 回利用）
BS フジテレビの番組「夢の食卓」に紹介され、事業の PR ができた。
- ・チャレンジシェフ事業：平日の夜間、曜日変わりで 10 回を 1 クールとして、夜の飲食店起業体験をしてもらう仕組みを導入。1 組の利用に留まった。
- ・レンタル・キッチン&スペース事業：料理教室などが開催できるレンタルキッチンと 1 テーブルから利用できるレンタルスペースを提供。フランス語講座、コーヒー教室、ハーブ講座、藍染め展、写真展、セミナー開催などの利用があった。
利用者数：33 名、延べ利用回数：77 回（最多利用者は 9 回利用）
- ・「コミュニティカフェ開設講座 in 神奈川」（長寿社会文化協会と連携）：コミュニティカフェや地域のたまり場・居場所の開設支援として、公益財団法人長寿社会文化協会（東京）・NPO 法人まちの縁側育み隊（愛知）・NPO 法人金沢観光推進会議（石川）・NPO 法人つながる KYOTO プロジェクト（京都）と連携して実施。メサ・グランデを会場に、19 名の受講生が県内各地から参加。6 日間の講座で、座学・実習や見学ツアーなどを企画・運営。2 月 23 日には、東京・四谷の主婦会館において、「コミュニティカフェ全国交流会」を行い、優秀プランの発表も行った。
講座の様様を NHK の番組「団塊スタイル」で紹介され、コミュニティカフェの意義がアピールできた。
- ・「コミュニティカフェ ガイドブック 神奈川県版」（3,000 部）の作成（長寿社会文化協会と連携）：上記同様、4 県で県内コミュニティカフェをリストアップ、取材し、冊子にまとめ、希望者に配布した。神奈川県版として 38 か所のカフェを取材し、製本した。川崎市内図書館をはじめ、県内各地の希望者に配布した。
- ・川崎市地域課題解決型コミュニティビジネス支援事業：川崎市から経費の一部の補助を受け、ワーキングカフェのための環境整備として、電気配線の整備と、ママ向け「自分らしい生き方、働き方」と題したコミュニティビジネス起業講座を商店街と連携して行い、また、スタッフ佐藤が、コミュニティビジネスアドバイザー講座を受講しアドバイザー資格を取得。



成果：・ワンデイシェフの経験を活かして 2 名が開店にこぎつけた。

- ・チャレンジシェフは 1 組の利用者に留まったが、その後もフォローし飲食店開店につなげた。
- ・貸しスペースは、一般のお客さんにとっては「面白い講座がいろいろあって飽きない」というメリット、講師にとっては気軽に講座ができ、サポートを受けられるというメリットを打ち出せた。メサにとってもランチの顧客が増えるという循環があった。

また、講座の参加者にはワンドリンク以上のオーダーをしてもらうので、午前の講座終了後に参加者同士で交流しながらランチをするというスタイルができ、ランチ売り上げに貢献してい

る。また、午後の講座に関しては、お茶やスイーツを買っていただけるため、ドリンク・スイーツの売り上げを貢献。

- ・「コミュニティカフェ開設講座」では、修了生の約半分が、その後、本格的な起業準備に取りかかっている。「コミュニティカフェガイドブック」は、新聞掲載（東京・神奈川・朝日）も奏功し、一般の方から 60 件超の問い合わせをいただき、広範囲に配布することができ、県内の多くのコミュニティカフェに実際に行く人々を増やした。

課題：・ワンデイシェフは前年に比べると利用料を大幅にアップしたので、シェフにとってのメリットをさらに提供する必要がある（コンサルティングの充実など）。集客活動、広報が純分できなかった。

- ・チャレンジシェフの利用が少なかったのは、曜日変わりの煩雑さと夜の集客実績の少なさが考えられるので、運用方法を修正する必要がある。
- ・貸しスペースは、利用内容とメサのミスマッチが生じることがある。
- ・「コミュニティカフェ開設講座」は、成果は大きかったものの、外部講師を多く呼んだため、利益が少なかった。「ガイドブック」は、非常に好評を得たが、書籍の課題として、すぐに情報が古くなる。
- ・「川崎市地域課題解決型コミュニティビジネス支援事業」は商店街との連携がそれほど深くできなかった。コワーキングカフェのアピールが十分できなかった。

川崎市コミュニティビジネス振興事業

（担当理事：竹林、スタッフ：田代・佐藤、協力スタッフ：塩沢）

事業規模：1,848 千円

目的：市民のコミュニティビジネスやソーシャルビジネスに対する関心を高め、それらに就業・創業したい人や、すでにそれらの事業を行っている事業者への支援等を通して、市域でのコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの振興を図る。

概要：川崎市からの委託事業。

- ・コミュニティビジネス相談窓口 相談案件：32 件、対応回数：42 回
内、年度内起業実績 3 名、就業実績 2 名（内、1 名はすでに退職）
- ・コミュニティビジネス支援セミナーの実施
 - 第 1 回：8 月 31 日「ソーシャルビジネスにおける WEB を活用した情報発信のコツ」
講師：株式会社スプラム代表取締役 竹内幸次さん 場所：高津区役所会議室 参加：37 名
 - 第 2 回：12 月 14 日「～NPO を経営するコミュニティビジネスの手法～ 地域資源『ひと・もの・こと』の活用」講師：NPO 湘南スタイル理事長 藁品孝久さん
場所：メサ・グランデ 参加：24 名（交流会 21 名）
 - 第 3 回：2 月 8 日「先輩起業家による熱いトークセッション 強みを活かせばうまくいく！」
講師予定者：株式会社えと菜園代表 小島希世子さん、NPO 法人イーエルダー 鈴木政孝さん 場所：高津区役所会議室 雪のため中止
 - 第 4 回：3 月 25 日「小さな一歩からはじめる 起業・独立・開業計画 ～多世代ワークプレイスで見つけよう！あなたらしい働き方」 登壇者：日本仕事百科代表 ナカムラケンタさん、株式



会社個コラボ代表取締役 芳賀哲さん、自分史上最高を生きるマイクロ起業女性育成リエゾン代表 石黒理紗さん) 場所：NAGAYAかわさき 参加：53名

・「かわさきコミュニティビジネス・メールマガジン」月に1回(全12回)の情報収集・提供

成果：相談から、専門家によるコンサルティングへのつなぎや、計画と類似の事業所への見学の設定や同行などから、32件の相談案件中、3名の起業、2名の就業に結び付いた。

課題：・相談窓口は、相談者のフォローアップをより丁寧に行い、起業につなげる必要がある。

・セミナーは、テーマの絞り込みや告知方法の工夫により、新たな層の掘り起しが必要。

・メールマガジンは、まだ配信数が200人台と少なく、登録件数を増やす必要がある。

(3) 子育てを支援する場所の運営及び関連事業の企画・実施(定款第5条(3))

川崎市地域子育て支援センター

(担当理事：池畠、スタッフ：小林・広岡、鈴木・下田・勝呂・山下・手塚)

事業規模：3,835千円

目的：子どもにとって友だちができる場、お母さんにとっても仲間と出会える場、このまちに住む人にとっても、子どもたちのことを考え交流できる場をつくる。

概要：地域子育て支援センター(児童館型、こども文化センター内)の運営

開設日時：「ますがた」月・火・水曜、「おおと」月・火・木曜の9時半～12時半

主なプログラム：ますがた「大きな紙に絵を描こう」、「草花はともだち」、「親子でリズム遊び」、「書と手形」、「七夕コンサート」、「クリスマス会」、「おさがりマルシェ」など

おおと「手形とわらべうた」、「親子でタッチケア」、「親子ピクス」、「バルーンアート」、「おはなし会 Week」、「牛乳パックで簡単おもちゃを作ろう ～コマ～」など

年間利用者：ますがた 4,063人(平均26人) おおと：3,896人(平均25人)

成果：「ますがた」

・このまちの親子の居場所、生活の一つの場所、日常を過ごす場として安心して過ごせる場所として定着した。

・親自身が行事を発案・企画し、講師や司会進行まで役割を担うなど、子育てを楽しむ力を養い、また地域の子育て力を高める場として機能した。

・元利用者の自主サークル「GEN KIDS」の活動への協力も引き続き行い、室内遊びから外遊び、もっと体を動かして遊びたい2歳児を中心とした活動の場づくりができた。



「おおと」

・行事の有無にかかわらず、顔なじみの利用者が増えてきていることから、「子育て中の親たちが安心して来室し、子育ての仲間をつくっていける場」として着実に機能しつつある。

・スタッフが利用者同士をつなぐ「懸け橋」という意識をもって利用者とかかわることで、利用者同士の交流の輪が広がり、今では、利用者が自分の子ども以外の子を見守る様子や、新規利用者に



積極的に声をかけ、会話の輪に迎え入れる姿も見られるようになった。

課題：必要とされている支援と、委託の業務内容との整合性に課題を感じている。

子育てに関する会議やイベントへの参加

- ・多摩区の子育て支援会議やこども総合支援連携会議、中原区の子育てネットワーク会議などに出席した。
- ・多摩区で9月に開催された「たまたま子育てまつり」に親子ひろばとして参加した。（「パラバルーンで遊ぼう」）
- ・中原区で11月に開催された「こども未来フェスタ」に地域子育て支援センターおおととして協力した。（グッズ作り）

（4）市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施（定款第5条(4)）

遊友ひろば事業（担当理事：池上・町田）

事業規模：3,097千円

・遊友ひろばを活用した市民活動支援の実施

目的：市民活動の活性化

概要：会員の参加も呼びかけ、遊友ひろばの運営の新たな形を模索するプロジェクトチームとして「遊友ひろば大改革委員会」を設けた。ひろばの貸し出し、手紙やFAXの受け取り場所としてのレターボックス、荷物の保管として引き出しの貸し出しを行った。また、地域の市民活動の情報を中心に、ひろばの壁面や机を活用したチラシを掲示については、不十分ながらも整理整頓、見やすさに配慮した。ひろばの貸し出し料金は、一般・会員ともに1時間あたり1,200円（200たまままで使用可）

定期的利用：8グループ（内2グループは3月で終了）、延べ158回

不定期利用：10グループ・個人、延べ25回

合計：18グループ・個人、延べ183回、528時間（昨年：23団体・個人、506時間）

成果：ボランティアによる運営体制づくりや連携団体の発掘など、新たな形を模索した結果、ボランティアスタッフ確保の目途が立ち、家賃値下げ交渉で更新後から少し値下がりすることになり（2014年6月から：219,240円 189,000円 約13.8%減）独立採算の目途が立ったので、昨年秋の理事会で2014年度のひろばの継続が認められた。

課題：利用者を増やし、スムーズな運営体制を構築する必要がある。

・健康麻雀（担当ボランティア：町田・江田・瀬川・志村）

目的：年配の方を中心とした脳活、居場所・仲間づくり。

概要：13年度から参加費の会員特典を廃止し、初級者サロン（火）は1200円、健康麻雀サロン（金）は1500円（いずれも500たまままで使用可）としたため、実質的には値上げになった方もあったが、参加が減少したのは最初の1カ月だけで、後は元に戻った。

ただ初級者麻雀の参加者は減少した。その分金曜日の参加者が前年度を上回り、両方合わせて昨年度から若干の増収になった。1,426,050円(昨年度1,382,000円)

- ・健康麻雀サロン / 毎週金曜日 10時～15時 会費：1,500円（500たまま使用可）



開催日数：47日 参加者数：762名（うちボランティア48名）1回平均約16名
（昨年は47日、744名）

- ・初級者麻雀サロン / 毎週火曜日 13時～16時 会費：1,200円（500たま使用可）

開催日数：49日 参加者数：601名（うちボランティア109名）1回平均約12名
（昨年は49日、882名）

成果：・値上げにも関わらず、金曜日は参加者数を前年度以上に確保できた。

- ・学生ボランティアが一人、火曜日に時々来てくれたので、若い人との交流も持てた。
- ・自宅介護している方をはじめ、ここに来るのが楽しみと言ってくれる方が多く居場所になっている。

課題：リハビリを兼ねている人や、麻雀そのものを楽しみにしている人までさまざまな参加者の全員がそれぞれ楽しめるような、仕組みの検討する必要がある。

- ・親子ひろば（担当ボランティア：粕谷）

目的：小さな子を持つ親の交流の場作り。情報提供など子育て支援。

概要：地域のボランティアの協力を得て、週1回木曜日に、10時半から15時まで開催した。

親が関心を持つテーマで多彩な講座を開催し、お昼を挟んでお互いの情報交換をした。

- ・参加組数：木曜日48回開催、340組（親子で1組）1回平均約7組（昨年は5組）

参加費：1組200円（100たままで使用可）

成果：地域の子育て中の親が知り合うきっかけの場づくりになっている。ボランティアの努力もあり、魅力的な講座が多く、子育て中でも色々なことを学べる場となっている。特に、昼食をみんなでゆったりおしゃべりは好評。参加者が増加した。

課題：・参加者が互いに特技を生かして講師を担い合える仕組みづくり。

- ・さらなる、ボランティアの協力体制

- ・土井さんのマクロビオティック料理教室（担当ボランティア：鈴木和子・宮下・町田）

目的：幅広い世代を対象にし、「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）暮らす土地の旬のものを食べること（身土不二）」を基本とした料理を学ぶ。

概要：月1回水曜日開催。3回で1コース7500円。特に1月から要望に応じて、土曜日コース開設。利用料1回2500円（1回につき100たままで使用可）でやってみた。

参加者：12回開催 延べ62人（昨年は75人）

成果：自然、体にやさしい食生活を学べた。コースを増やしたことで、赤ちゃんのいる親、社員が参加できるようになった。

課題：参加人数の安定化。

- ・寺子屋（担当ボランティア：川口・高崎・野口・徳田・町田）

目的：小・中学生を対象に安価で楽しく学べる場づくり。

概要：講師は地域のボランティアにより、運営。毎週月曜日開催。一回1時間500円。月謝制。

開催日：毎週月曜日 17:00～18:00 小学4～6年算数 18:30～19:30 中学1～3年数学

19:40～20:40 中学1～3年英語

年間 算数...39回開催、参加者延べ人数：309人（昨年288人）



数学...39 回開催、参加者延べ人数：96 人（昨年 164 人）

英語...40 回開催、参加者延べ人数：143 人（昨年 151 人）

成果：成績が上がった、楽しいとの参加者からの声があった。小学生参加が安定的に月約 10 人。中学生も夏から増えて英数のべ約 5 人であった。

課題：中学生(特に英語)を、各学年 1 名程度増やしたい。

・歌声サロン（担当ボランティア：江田）

地域交流のきっかけ作りとして、幅広い人が参加できる「うた」とともに楽しむ場として、「歌声サロン」を開催してきたが、13 年度は、講師と参加者の自主サークルとして自主運営に移行した。

・その他の企画

「大宴」：地域のいろんな人と出会い交流を持ちたいということで、一品持ちより、自分の飲み物持参という形で誰でも参加 OK の飲み会を 4 回開催した。参加者数は 1 回約 15、6 名。

料理の話から、興味のあること、やっていることなどで盛りあがった。

・ぐらす・かわさきでの「たま」利用状況 単位はたま（ ）内は昨年度実績

[収入]

親子ひろば / 1600 (2,250) 健康麻雀 / 56,600 (73,700)

マクロビ料理教室 / 100 (0) 歌声サロン / 400 ひろばレンタル / 32,500 (24,400)

その他 / 7,550 (5,900) 寄付 / 20,900 (17,000) 合計 119,650 (115,350)

[支出]

親子ひろば / 45,100 (8,450) 健康麻雀 / 61,450 (41,150) その他 / 43,700 (34,150)

合計 / 150,250 (83,750) 差引 / - 30,600 (31,600)

メサ・グランデにおける八百屋カフェ事業・市民の交流事業

(担当理事：竹林・田代、スタッフ：佐藤・東・新堀・河合・青木・清水・西川・吉田)

事業規模：16,020 千円（内 事業収入：12,145 千円・寄付収入：3,875 千円）

・八百屋事業 売上高：4,792 千円（2012 年度売上高より 156% 成長）

目的：地産地消の推進。市内農資源のアピールによる、地元意識の醸成。農と地域住民を結ぶ。

概要：地元野菜の販売。2 件取引先農家が増加した（宮前区の 2 件。高津区の 2 件）。合計 8 件
タウンニュース「高津地産地消レシピ」の連載を 7 月より行い、食べ方の提案と農家との関係を強化（連載継続中）。

成果：売上高、仕入れ件数の増加から、地産地消の地域での波及が見られる。

課題：・気候の変動で端境期が読めず、売り上げの波が激しく落ちこむことがある。

・委託販売形態のため、品が偏りがち。

・売れ残りの野菜の加工販売。

・カフェ事業 売上高：7,310 千円（2012 年度売上高より 132% 成長）

目的：野菜たっぷりの食事の提供により、地域の健康づくり・食育・地域コミュニティを促進。

売上をしっかりと確保し、「コミュニティカフェ」のモデルになる。

概要：地元野菜と安全性の高い食材を使った、モーニング、ランチ、ディナーを提供した。

・飲食業コンサルタントのアドバイスを受け、5 月にメニューを変



更。「日替わりお野菜たっぷりランチプレート(定食)」、「三元豚とトマトのスパイシーカレー」、「季節野菜と重ね煮の豆乳ポタージュ」の三本立て。限られた人員で手の込んだ3つのメニューをこなせるように、仕込みを工夫した。また定食は、効率化のため、10月より「日替わり」から「週替わり」に変更した。

- ・ランチの弁当は、普段の単価(700円)よりも高いもの(1,000円程度)の特注弁当を受注し、リピート受注につなげた。
- ・平日夜の営業は、10月からはスタッフによる営業に変更した。
- ・スタッフができる限りお客さんに対して、イベントへの参加や相席での会話を促し、交流の機会をできるだけ設けた。下記のような各種のイベントも行った。

(ア) ハーブウィーク：起業支援の一環で知り合ったハーブに詳しい女性、川崎市農政課との共催。8月最終週(集客が落ち込む週)に実施し、川崎市の所有する畑から生のハーブを直送してもらって日替りの手仕事・料理講座をした。毎日10人以上の参加者で5日間連続で実施。

(イ) 岩手食材ウィーク：都内の企業からの提案で、岩手県の農家のこだわり食材(米、バジルソース)を使ったメニューを展開。集客にはそれ程影響が無かったものの、企業とのコラボレーションの経験が得られた。

(ウ) ライブ：チェンバロ&ハーブ、フルーツなどによるクラシックやポップスのライブを音楽家と共催で平日の夜に延べ3回行った。週末の昼間にスタッフの友人によるジャズライブも開催。参加者は毎回20人強で、売り上げにも貢献した。

(エ) 旧暦の集い：市民活動グループとの共催で、五節供をテーマに、休日の夜に5回実施。参加者は毎回20人前後で、売り上げにも貢献した。

(オ) まちづくりカフェ：理事を中心に企画し、平日の夜に4回実施。参加者は毎回20人前後で、参加者同士の交流が進んだだけでなく、売り上げにも貢献した。

(カ) 男子ニット部：福島の支援を目的に編み物の活動をしている女性と共催。月に一度、会社帰りの男性を中心に集まり、夕食後に編み物をした。参加者は毎回5人~10人くらい。

成果：・口コミやメディアへの露出を通じて、顧客の数が増え、リピーター化している。(神奈川新聞、タウンニュース「人物風土記」欄にスタッフの紹介記事掲載。FM横浜「イーネ Good for you」に出演。神奈川テレビ「かながわ旬菜ナビ」に出演。タウンニュース「高津地産地消レシピ」をタウンニュース社とコラボレーションで月に一度連載。)

・定食を週替わりにしたことで、食材のロスが減り、スタッフが調理に慣れることができ、効率が上がった。

・メニューに野菜を多用することで、野菜の売上アップと、野菜の摂取量アップにつながった。

・新メニュー導入で、客単価が上昇し、売り上げアップに貢献した。

(導入前：ランチ800円のみ 導入後：ランチ800円・850円・980円・1200円から選択)

・店頭の野菜を買いに来る 店内のランチを食べる 店内の情報に刺激を受け、イベントに「参加」する 自分もイベントを「主催」してみる 新しいお客さんが呼び込まれる...という流れができてきた。

・ワンディシェフ経験者の女性や、コミュニティカフェ開設講座受講生の協力、またラン

チタイムのデザート仕込みスキルの向上に伴って、スイーツ類の売り上げを伸ばしている。

・就労支援を行う株式会社ダンウェイからの依頼で、6名の研修生を受け入れた。野菜の販売や厨房の手伝い、清掃などを手伝っていただき、研修生にとっての社会復帰の一助としていただけた。メサ・グランデにとっても、人手という面でメリットを感じた。

課題：・ランチの回転率が悪い。のんびりできる雰囲気、子どもが大きな声を出しても気にならないというお店の雰囲気はお母さん層に支持されているが、なかなか席が空かずに後の人が入れないことがある。

・アイドルタイムの収益性の向上。ランチ以外の時間帯で売れるスイーツ類、持ち帰り総菜類の製造販売が必要。

・普通の飲食店では夜が稼ぎの中心だが、メサでは夜の収益性をどうあげていくか。

(5) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供 (定款第5条(6))

学習会・講座の企画・運営 (担当理事：町田、スタッフ：広岡)

事業規模：60千円

目的：地域で学び合う機会を設ける。ぐらす・かわさき会員の企画を応援する。

概要：3回の学習会を開催した。

・「今、動きだす集团的自衛権とは何か!?」講師：高城昌宏弁護士

開催日：9月19日 場所：遊友ひろば 参加人数：11人

内容：秘密保護法の内容を知ろう。市民の声をどのように届けていけばよいかなど熱心に議論が交わされた。

・「川崎市2014年度予算学習会」講師：三浦淳川崎市副市長

開催日：3月1日 場所：メサ・グランデ 参加人数：20名

・「成年後見制度をもっと身近に・・・」講師：茂呂典子さん

開催日：3月16日 場所：遊友ひろば 参加人数：11人

内容：講師はたすけあい多摩に勤務し、成年後見制度を広める活動

をしている银杏の会所属。一人暮らし、介護中などで切実な問題をかかえている方が多いということが印象的であった。



さまざまなグループへの参加と応援

・地域通貨「たま」運営委員会への参加

概要：ぐらす・かわさきの提案で始まった活動で、地域通貨「たま」運営委員会の事務局をぐらす・かわさきが担ってきた。2013年度からボランティアスタッフが事務局を運営。

たまが使える「たま楽市」年2回開催、たまキャッチボール交流会を2回、「エンデの遺言」を見る会を2回開催。

・生田緑地周辺をたまを使って歩こう、という会を行ったり、たま事業者会員のつなぎ堂さんの協力で、個人や事業者との間でたまのやり取りが活発に行われ、見える化が少しできた。

・個人会員 / 88名 (更新確認処理をやり、個人会員は継続する意思のある方だけに限定)

・事業者会員数 / 61 事業者

団体会員数 / 17 団体

・「多摩区観光推進協議会」理事として参加(町田)

・「NPO法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加(田代)

- ・「かながわ生き生き市民基金」評議員として参加（江田）
- ・多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）へ会員としての参加し、事務局を応援
- ・川崎 NPO 法人連絡会への会員としての参加
- ・その他 / 「福島の子どもたちとともに川崎市民の会」「地域から平和を考える会」「教育に憲法を生かす川崎市民の会」等に協力団体として活動を応援。地域の市民や活動グループからの呼びかけの都度理事会で検討し、可能のものは協力してきた。

広報（担当理事：泉、担当スタッフ：広岡）

選択と集中を意識し、WEB の活用を拡大し、ぐらすレターを縮小の方向で少ない経費で効果的な広報を目指して取り組んできた。

- ・インターネットの活用

ホームページやブログなど、専門家のアドバイスを聞くなどしながら、抜本的な見直しを行い、時代の流れに合った形態に、実行可能なものから修正をしてきた。

- ・ぐらすレターの発行

これまで年間 10 回発行してきたが、人員削減もあり、隔月の発行とした（年間 6 回）。事業報告・地域の情報・イベント情報、または会員からの問題提起などの投稿を掲載し、会員や関係者に情報提供した。また、メサ・グランデ通信やひろばのお知らせを同封した。

ぐらすレター No.119 4月18日発行

ぐらす・かわさき第 13 回定期総会に向けて / メサ・グランデ 5 月からの利用方法改訂します / かわさきサポート基金の使い道報告その 1 / たま・みた・まちもりプロジェクト No.3 / 介護で Go ! その 4 / 第 5 回ピースカフェ / 総会のお知らせ / 事務局便り / Message Board

ぐらすレター No.120 6月17日発行

ぐらす・かわさき第 13 回定期総会報告 / メサ・グランデのお野菜と過ごす日々 / 「遊友ひろば」「大宴について」 / みたまちもりカフェ 5/15open しました / Message Board

ぐらすレター No.121 8月8日発行

メサ・グランデ 夜も！地域コミュニティ拠点に / 遊友ひろば大改革委員会からのお知らせ / 大宴報告 / 介護で GO その 5 「プチ手助けはありがたい」の巻 / たちばな農のあるまちづくりから報告 / 7 月の報告 地域子育て支援センターますがたでは / ピースカフェ報告 / 「3 匹のかわいいオオカミ」のお話 / 福島の子どもたちの「保養プログラム in 川崎」夏 / 寄稿 リニア新幹線は「百害あって一利なし」 / ぐらす・かわさきからのお知らせ / Message Board

ぐらすレター No.122 10月10日発行

「遊友ひろば」2014 年も継続決定 / メサ・グランデ BS 「夢の食卓」に登場 / 全国 5 都市でコミュニティカフェ解説講座 / 地域子育て支援センターおとでは / 「集団的自衛権とは何か」学習会報告 / 市民ファンド学習会報告 / みた・まちもりカフェからお知らせ / Message Board

ぐらすレター No.123 12月12日発行

どんどん使ってください！ 遊友ひろば / メサ・グランデ 本番を重ねて見えたやりたい形 / 晴レルヤ！パレスチナ / かわさきサポート基金の使い道報告その 3 / 「飯館村」写真展・上映会報告 / みた・まちもりカフェおかげさまで半年たちました / 稀代の悪法 特定秘密保護法 / 私が気になる世の中のこと「癒し」という商品 / コミュニティカフェ開設講座終了 / Message Board

ぐらすレター No.124 2月13日発行

美味しい！体に良い！エコになる！マクロビオティック料理教室にどうぞ／川崎ダルク女性のための日中活動の場設立／みた・まちもりカフェ 地域に根を下ろし中／祝！開店 ムビリンゴ／2014年度川崎市予算学習会／Message Board

講師派遣

スタッフを講師として派遣し、コミュニティビジネスや市民活動を支援した。

行政などに関わる委員会への参加

市民活動支援指針改訂検討委員会への委員としての参加（広岡）

商店街活性化のための活動

多摩区商店会連合会や登戸東通り商店会の事務補助を行った。新城南口商店会に参加した。